

残りの飼育鉢である睡蓮鉢は一旦メダカたちを仮飼育容器に移し、汚れた底砂も水道水で綺麗に洗い流し、田んぼの土の代わりに真砂土を底に敷き、たっぷり水道水を入れ、2,3日天日にさらし、カルキ抜きをし細かい土の沈むの待ち、仮飼育容器のメダカたちを戻してやる。2,3匹しかいなかった鉢は、メダカはほかの鉢に移すから、次世代用の鉢として、ただ水をたたえたままで出番を待つことになる。4つのメダカがいる鉢と、6つの出番待ちの鉢ができたのだ。

アライグマ対策をしながらのメダカ生活の今シーズンがこうして始まった。



前面、側面に百均の台所用格子棚をつけ、風通しのいいようスダレをかけレンガの重石をつけアライグマ侵入防止を図る。



## ～新職員紹介～

①氏名 ②年月 ③職種 ④趣味 ⑤抱負

- 看護師 (入所フロア) 2名
- 介護職員 (入所フロア) 2名
- 介護職員 (通所リハ) 2名
- 作業療法士 1名
- リハビリ補助 1名
- 運転手 2名

が新しく仲間となりました。よろしくお願いいたします。

### —編集後記—

虫の声など秋の訪れを感じる今日この頃、皆様はいかがお過ごしでしょうか。最近ではコロナやインフルエンザといった感染症が再び増えつつあります。高齢者施設ではまた予断を許さない状況にあります。

さて、当施設では夏に予定していた夏祭りが延期となり今後こそ秋祭りを成功させたいと職員一同頑張っています。老健通信が皆様の手元に届くころには成功しているでしょう。次回号で朗報を届けたいと考えています。

引き続き感染予防にご協力をお願いいたします。

(文責：久保田将伸)

# 箕面老健通信



令和5年10月発行

第48号

## 箕面市立介護老人保健施設の理念

### 1、人権尊重

自己決定権を尊重し、安全を確保して医療・看護・介護・リハビリテーションサービスを包括的に提供します。

### 2、在宅復帰・在宅支援

住み慣れた地域で生活できるように家庭復帰と在宅生活の支援を行います。

### 3、地域福祉の推進と福祉文化の創造

福祉がいつでも、どこでも、誰でも権利として享受できるよう支援します。

箕面市立介護老人保健施設

〒562-0014 大阪府箕面市萱野5丁目8番2号

指定管理者 箕面市社会福祉協議会

TEL 072-727-9530

FAX 072-727-3598

## ～「失敗しない福祉用具の選び方」を開催～

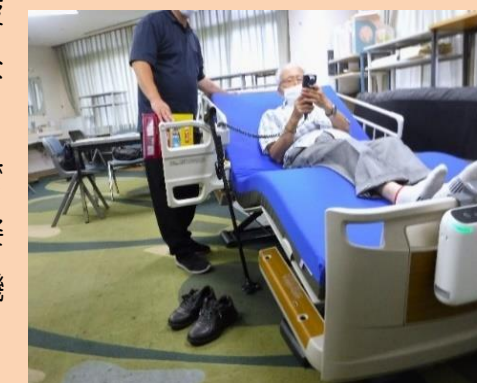
当施設で、年に1回専門の講師を外部から当施設に招いて市民講座を開催しています。

今年度は9月21日(木)14時から総合メディカル株式会社(福祉用具・介護用品の専門会社)から講師にお招きして「失敗しない福祉用具の選び方」を行いました。



4名の市民の方が参加され、講師が用意した車椅子や歩行器、ベッドやマットレスなどを実際に触り、操作の体験をしていただきました。参加者は普段触る事のない機能の説明など熱心に聞いておられました。また、参加者もご自身の生活に必要な用具について「杖の種類や安定性、歩行器の選び方や疲れた時などに座る事が出来るのか」など数多くの質問をしておられました。

ベッド本体の頭側が上がり、足元側が沈み込むことで寝た状態でも足元の視界が広くテレビ鑑賞ができたり、ボタン1つで安楽な姿勢がとれるなどの利便性がどんどん上がっており、施設には無い機能もあり施設スタッフも感動しました。



講師からは「福祉用具はレンタルできる用具がたくさんあります。購入だと身体機能の変化により変更したい時に、交換は出来なく使えなくなってしまいますが、レンタルであれば交換する事が出来ます。また、メンテナンスも出来る事からまずは担当ケアマネジャーや福祉業者に相談していただき、レンタルできるものはレンタルで調整する事をお勧めします」とのアドバイスでした。

## ～「アフタースクールぴあにしも」の子どもたちが出演！～



9月2日(土)「アフタースクールぴあにしも」に通う19名の子どもたちが当施設3階フロアを訪れ、かわいい歌声と楽器の演奏を聞かせてくれました。「アフタースクールぴあにしも」は主に発達障害・自閉症を持つ子どもの療育を目的とした児童発達支援・放課後等デイサービスで、歌やダンス・リズム遊び・楽器演奏などの音楽療育をされているところです。教室の中だけでなく、地域との交流も大切にされており、この度当施設で出演していただくことになりました。

子どもたちも最初は緊張気味でしたが、すぐに明るく元気な笑顔で歌ってくれました。こんなにたくさんの子どもたちが、入所フロアに集まるのは何年振りかわからないぐらいです。

利用者のみなさまも大変喜んでくださり、一緒に口ずさんだり、リズムに乗って体を動かしたりしてたくさんの笑顔が見られました。子どもたちも、「おじいちゃん、おばあちゃんがニコニコして手をたたいたり、手をふってくれた、涙を流しているおばあちゃんもいた、とても嬉しかった」という感想だったと先生よりお聞きしました。



## ～学童保育車椅子体験～

地域貢献活動の一環として、体験型講習会を夏休みの豊川北小学校学童保育で40名ほどの子ども達に実施しました。

まず、車いすマークなどユニバーサルデザインとマークをクイズ形式で行いましたが、「駐車場で見るやつ」「車に貼ってるマーク」など子ども達からも声があがり、興味を持って見てるんだなあっと感じました。

車椅子の操作の注意事項とルート確認の説明を行った後に体験開始です。2人がペアとなり、車椅子を押す側と乗る側と交互に体験してもらいました。移動する際の声掛けに戸惑ったり、障害物を乗り越えれなくて四苦八苦する姿もありました。また、声掛けされず急に押されて驚いたり、スピードを出し過ぎて、壁や扉にぶつかったりもしました。実際に体験する事によって「重かった、怖かった、楽しかった、大変だなあと感じました」など、車椅子に乗ってる人の気持ちや押す人の気持ちを実感してもらいました。子どもたちはしっかりと話を聞き真剣に車椅子介助に取り組んでいました。



## ～第5回 田中千足先生（前施設管理者）とのコラム～

### メダカ君をアライグマから守らねば

田中 千足



攻撃は最大の防御なり、メダカ君たちを守ってやる最も確実な方法はアライグマの捕獲である。私が住んでいるところは箕面市の隣の吹田市である。吹田市のホームページには、一般市民にもアライグマの捕獲器を貸し出すとある。捕獲器借用書をダウンロードすると、注意書きにアライグマは獰猛で危険だから捕獲器の使用・管理には危険防止と安全対策を自らの責任で図れとある。うまく捕獲できれば市の環境政策室に連絡せよとある。引き取りに行くのに暇がかかる場合もあるからその間はきちんと管理しろとある。ちょっと怖いかなあと怖気づきそうになる。もしネコ・イタチ・タヌキ等のアライグマ以外の獣がかかったときは、借主自身で市内の緑地、河川敷にて放獣することもある。



アライグマ捕獲器。

相当面倒そうだが、ともあれ吹田市役所の環境政策室に捕獲器を借りに行くことにした。施設管理者をやめて4月3日(月)の午後がフリーになり、吹田市役所に行ける日がやってきた。昼食もそこそこに、勇躍市役所に車で向かったのだが、なんと駐車場に入ろうとする車で一杯で駐車場に続く道路は入場待ちの車の列ができています。退場する車はほとんどなく、あとどれだけ待てば入場できるか全くわからない。そう、この日は新年度最初の開庁日で市役所内ではいろいろな行事や手続きの人であふれかえっているみたいだ。また今度でいいやと並ぶのが苦手な私は待ち行列から外れた。

こうしてアライグマ捕獲器の借用を先延ばしにしたが、その言い訳は、捕獲器を使ってうまくアライグマを捕獲する保証もないし、何より防御体制をもう少し上げるだけでメダカ君たちを守ってやれるだろうと考えたので。

500匹以上もいたメダカ君たちが全滅したと頭が真っ白になってしまったが、3月7日の襲撃の2日後飼育鉢を調べてみると、どの鉢にも最低2、3匹、被害の少ない鉢では10匹以上も生き残ってくれていた。全部合わせると50匹ほどはいた。2年3年もの大きなメダカが特にアライグマの餌食になったようで、生き残ったものは稚魚とっていいほどのサイズのものが大多数だった。

手で持ち上げられない2つの大きな鉢は、ホテイアオイの残骸を取り除き、きれいな水を加えるだけにした。生き残ったメダカたちは広々とした環境で悠然と泳いでいるようだった。

手で持ち上げられない2つの大きな鉢は、ホテイアオイの残骸を取り除き、きれいな水を加えるだけにした。生き残ったメダカたちは広々とした環境で悠然と泳いでいるようだった。



大きな鉢のメダカたち。アライグマの襲撃後、激減している。